

I 研究のねらい

昨今、IT技術の進歩やオートメーション化の影響で、人を介すことなくモノやサービスを受けられる場面が増えてきており、子どもたちの目には、それが当たり前なこととして映っている可能性がある。しかし、実際に私たちが受け取るモノやサービスには、少なからず人々の工夫や努力がある。工夫や努力が見えづらくなってきているからこそ、工夫や努力が社会生活の維持や向上に寄与しているということを、社会科の学習を通して認識することには意義がある。このことは、学習指導要領において、「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を養う」という社会科の目標に通ずる。

社会情勢に目を向けると、高齢化に伴う就労期間の延長やコロナ禍で広まった在宅ワークなど、働き方や働く環境が大きく変化している。一方、若者の不安定就労は社会問題化してから久しく、令和2年に行われた厚生労働省の調査では、3年以内の新規高卒者・大卒者の離職率は3割を越える状況が数十年続いている。筑波大学教授藤田晃之氏は、離職率について簡単に評価できないものの、日本の子どもたちは自分の将来のために学習を行う意識が低く、学校教育と就職生活との接続に課題があるということを指摘している。このような状況を背景にキャリア教育の必要性が語られるようになり、学習指導要領では、「各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」が明記された。また、学習指導要領改定に伴う改善事項として、「社会との関わり」を意識した学習の充実が挙げられており、これは令和4年に文部科学省が発刊した「キャリア教育の手引き」において、キャリア教育推進のために家庭・地域や企業・産業界との連携が推奨されている点と合致する。キャリア教育における諸機関との連携には様々な効果が期待されており、具体的には「自己理解を深め、職業の実態をつかみながら、『なぜ働くのか』『どのような役割を果たしたのか』などを考えることができる」「地域や事業所に対する理解が深まる」などの点が挙げられている。社会との関わりを土台とした本研究は、キャリア教育において求められる学習の在り方との親和性が高く、子どもが自身の将来におけるキャリア形成を考える上で、一助になると考えた。

以上から、私は、社会生活の維持や向上のために取り組む人々の工夫や努力を「人々の働き」とし、社会的事象から人々の働きを考えることができる子どもの育成を目指し、実践に取り組むことにした。

II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立栄小学校 第4学年 20人

2 基本的な考え

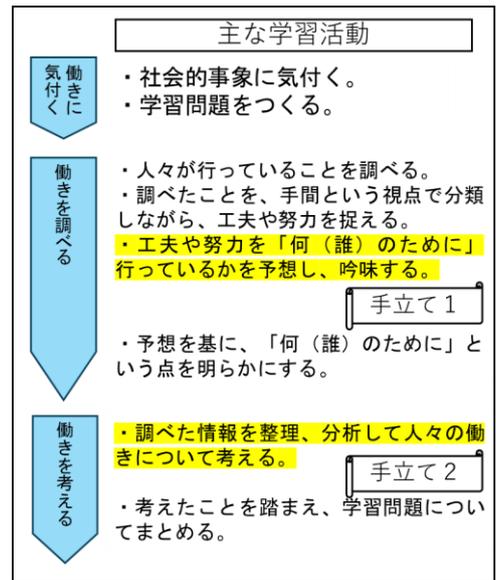
人々の働きを考えると、社会的事象から工夫や努力を捉え、人々が「何（誰）のために」行っているかという視点で考えることである。これまでの実践を振り返ると、工夫や努力を捉えることはできても、「何（誰）のために」という点に目を向けることができない子どもが見られた。そこで、「手間」という視点を取り入れて工夫や努力を調べることにした。手間とは、取組に掛かる時間や労力のことである。人々が様々な取組に手間を掛けていることに気付くことができれば、「なぜそのようなことをするか」「どうしてそこまでするのか」という問いが生まれやすくなり、これらの問いを考えることが、「何（誰）のために」行っているかという視点で考えることにつながると考えた。

本研究では、「働きに気付く」「働きを調べる」「働きを考える」という三つの学習段階を設定して、実践に取り組む【資料1】。

まず、「働きに気付く」段階では、社会的事象に気付き、人々の働きを考えることにつながる学習問題を設定する。

次に、「働きを調べる」段階では、人々が行っていることを調べ、手間という視点で分類しながら、工夫や努力を捉える。そして、「なぜそのようなことをするのか」「どうしてそこまでするのか」という問いをもち、答えを予想して吟味し、予想したことを基に更に工夫や努力を調べる。

最後に、「働きを考える」段階では、調べたことを基に工夫や努力が何（誰）のためかを考える。こうすることで、工夫や努力を捉え、それらが社会生活の維持や向上につながっていると認識することができる考えた。



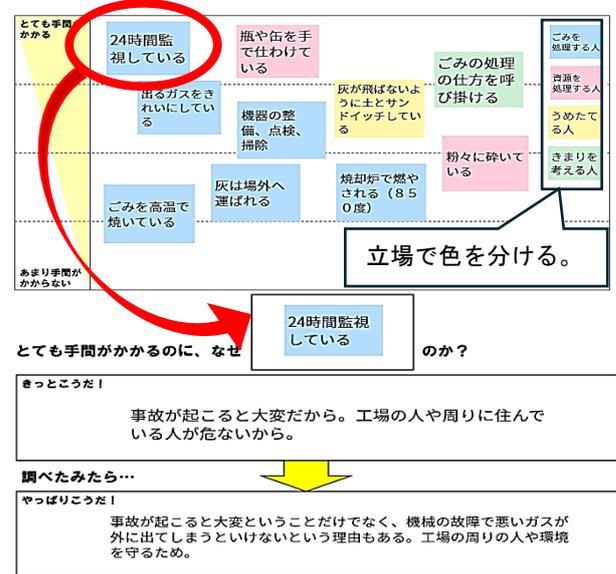
【資料1：基本的な学習の流れ】

(1) 「何（誰）のためか」を予想し、吟味する活動

まず、手間という視点で分類した工夫や努力の中から、「なぜそのようなことをするのか」「どうしてそこまでするのか」と思うものに着目し、「きっとこうだろう」という予想を立てる。

次に、立てた予想について「なぜそのような考えたのか」と互いに問い合う。問われたことに対して再考し、加筆修正する。問い合い、再考する一連の活動を「吟味」とする。予想し、吟味することで、一つ一つの工夫や努力が、「何（誰）のために」行っているかという点に目を向けることができるようになると考えた。

最後に、予想を基に調べ直し、「何（誰）のために」という点を明らかにする【資料2】。



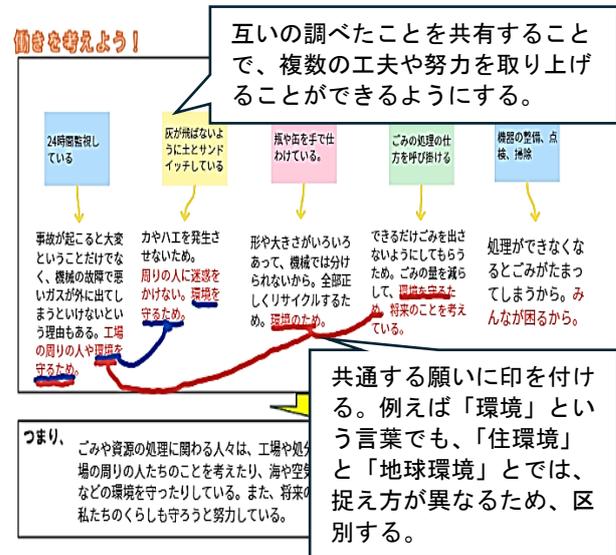
【資料2：予想し、吟味する活動で使用するシート】

(2) 人々の働きを考えるための整理、分析活動

まず、工夫や努力と調べて明らかになった情報を結び付けて整理する。

次に、工夫や努力に結び付けられた情報について、「何（誰）のために」という点に着目して見比べ、工夫や努力に共通する願いを見いだす。この際、同じ言葉であっても、願いの内容や対象が異なる場合があるため、願いの捉え方にずれはないかを確認できるようにする。

最後に、分析したことを基に人々の働きについて考え、まとめる【資料3】。こうすることで、人々の工夫や努力が社会生活に果たす役割について考え、社会生活の維持や向上につながっているということを認識することができる考えた。



【資料3：整理、分析活動で使用するシート】

3 6月実践「ごみの処理と利用」 9月実践「地震からくらしを守る」における学習展開

<p>単元と目標</p>	<p>単元「ごみの処理と利用」(10時間完了) 【実践のねらい】 ごみと資源を処理する事業は、衛生的な処理や資源の再利用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解することができるようにする。また、ごみと資源を処理する仕組みや再利用、県内外の人々の協力など事業に携わる人々の工夫や努力を調べ、事業が果たす役割について考え、適切に表現することができるようにする。</p>	<p>単元「地震からくらしを守る」(10時間完了) 【実践のねらい】 地域の関係機関や人々は、大きな地震に対して、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される地震に対し、様々な備えをしていることを理解することができるようにする。また、地震から人々のくらしを守るための関係機関の活動や協力など、取組に関わる人々の工夫や努力を調べて、取組が果たす役割について考え、適切に表現することができるようにする。</p>
<p>段階</p>	<p>主な学習活動</p>	
<p>働きに気付く</p>	<p>① 様々な種類のごみや資源が捨てられることに気付き、ごみや資源の行方について関心をもつ。また、名古屋市の人口が増えているのにも関わらず、ごみの処理量が減っていることを知る。これらを基に疑問に思ったことを出し、学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【学習問題】 たくさんのごみと資源をしょりするために、だれが、どのような働きをしているのだろうか。</p> </div> <p>② 学習問題について予想し、調べる視点を明らかにし、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【視点】 ごみを処理する人が行っていること 資源を再利用する人が行っていること 仕組みやきまりを考える人が行っていること</p> </div>	<p>① この地域では、定期的に大きな地震が発生していることを知り、現在発生の可能性が高まっている事実を知る。また、学校での避難訓練の様子や地震発生時における救助活動の様子などから、地震に対する備えや実際に発生した際の人々の働きに関心をもつ。これらを基に疑問に思ったことを出し、学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【学習問題】 大きな地震からくらしを守るために、だれが、どのような働きをしているのだろうか。</p> </div> <p>② 学習問題について予想し、調べる視点を明らかにし、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【視点】 地震に備える人が行っていること 地震発生時の人が行っていること</p> </div>
<p>働きを調べる</p>	<p>③～⑥ ごみや資源の処理の仕方や処理後の行方について、視点を基に自分に合ったペースや方法で調べ、手間という視点で分類しながら工夫や努力を捉える。</p> <p>⑦⑧ 調べて明らかになったことを基に、工夫や努力について「何(誰)のために」行っているかを予想し、吟味する。予想したことを基に、更に調べる。【検証場面1】</p>	<p>③～⑥ 防災対策や地震発生時に他地域において行われた取組について、視点を基に自分に合ったペースや方法で調べ、手間という視点で分類しながら工夫や努力を捉える。</p> <p>⑦⑧ 調べて明らかになったことを基に、工夫や努力について「何(誰)のために」行っているかを予想し、吟味する。予想したことを基に、更に調べる。【検証場面1】</p>
<p>働きを考える</p>	<p>⑨ 調べた情報を整理、分析して、ごみや資源の処理に携わる人々の働きについて考える。【検証場面2】</p> <p>⑩ 考えたことを取り入れながら、学習問題についてまとめる。</p>	<p>⑨ 調べた情報を整理、分析して、地震からくらしを守るための取組に携わる人々の働きについて考える。【検証場面2】</p> <p>⑩ 考えたことを取り入れながら、学習問題についてまとめる。</p>

4 子どもの実態把握

単元「水はどこから」の学習で、「働きを調べる」段階において、手間という視点で工夫や努力を分類したことを基に、「何（誰）のために」行っているかという点に目を向けることができるか、シートの記述から調査する。また、「働きを考える」段階において、調べたことを基に人々の働きを考えることができるか、シートの記述から調査する。更に、働く人々と自分たちの生活との関係をどのように捉えているかを質問紙法で調査し、各段階における調査結果と照らし合わせることで、人々の働きに対する認識を調査する。

5 授業研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 「働きを調べる」段階において、工夫や努力について「何（誰）のためか」を予想し、吟味する活動を取り入れることは、工夫や努力について「何（誰）のために」行っているかという点に目を向けることができるようになる上で有効か、シートの記述からつかむ。
- (2) 「働きを考える」段階において、人々の働きを考えるための整理、分析活動を取り入れることは、工夫や努力が社会生活にどのような役割を果たしているのかを考える上で有効か、シートの記述からつかむ。

Ⅲ 年間の研究計画

月	研究・調査・授業研究等
4	○ 実態調査を行う。
5	○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。 ○ 第1次授業研究計画書を作成し、検討する。 ○ 長期研修計画書を作成する。
6	○ 第1次授業研究 実践単元「ごみの処理と利用」 【検証点1】 「働きを調べる」段階において、工夫や努力について「何（誰）のためか」を予想し、吟味する活動を取り入れることは、工夫や努力について「何（誰）のために」行っているかという点に目を向ける上で有効か、シートの記述からつかむ。 【検証点2】 「働きを考える」段階において、人々の働きを考えるための整理、分析する活動を取り入れることは、工夫や努力が社会生活にどのような役割を果たしているのかを考える上で有効か、シートの記述からつかむ。
7	○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考えを修正する。 ○ 中間のまとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。
8	○ 長期研修(A日程)実践理論に関わる研究者を訪問し、研究を深める。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・東京学芸大学教職大学院教授 大澤 克美氏 ・筑波大学教授 藤田 晃之氏 ・佛教大学教授 小林 隆氏 ・大妻女子大学教授 澤井 陽介氏 ・上越教育大学教授 阿部 隆幸氏 ・札幌国際大学教授 朝倉 一民氏 ・札幌市立新光小学校教頭 斉藤 健一氏 </div> ○ 長期研修で学んだことを基に改善し、第2次授業計画書を作成する。
9	○ 第2次授業研究 実践単元「地震からくらしを守る」
10	○ 第2次授業研究を分析する。
11	○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題などを明らかにする。
12	○ 最終報告書を作成する。
1	○ 主題について研究の成果や課題をまとめ、発表する。
2	○ 1年間の研究を振り返り、今後の研究の方向付けをする。
3	

参考・引用文献 北海道社会科教育連盟編集『「～のはずなのに、なぜ？」を教材化する社会科学習』東洋館出版社(2022)